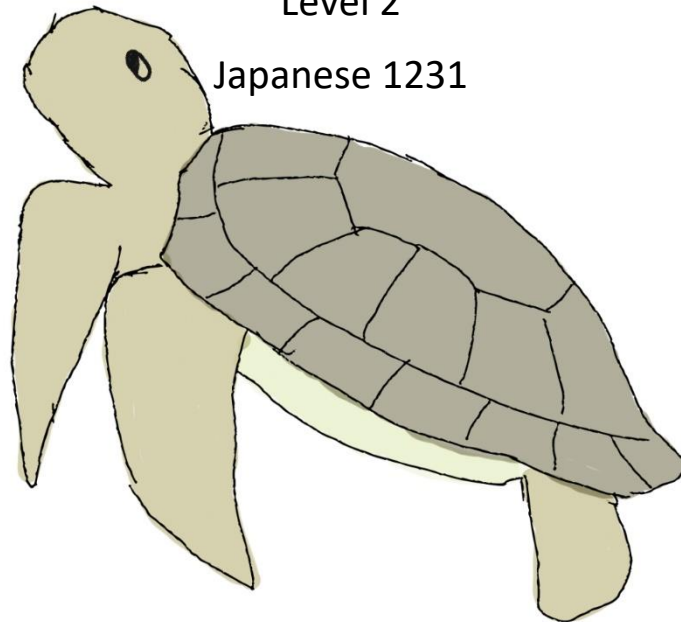


じぶん こうら  
カメさんは自分の甲羅を見つけた

ベルズ・スティーブン Steven Belles

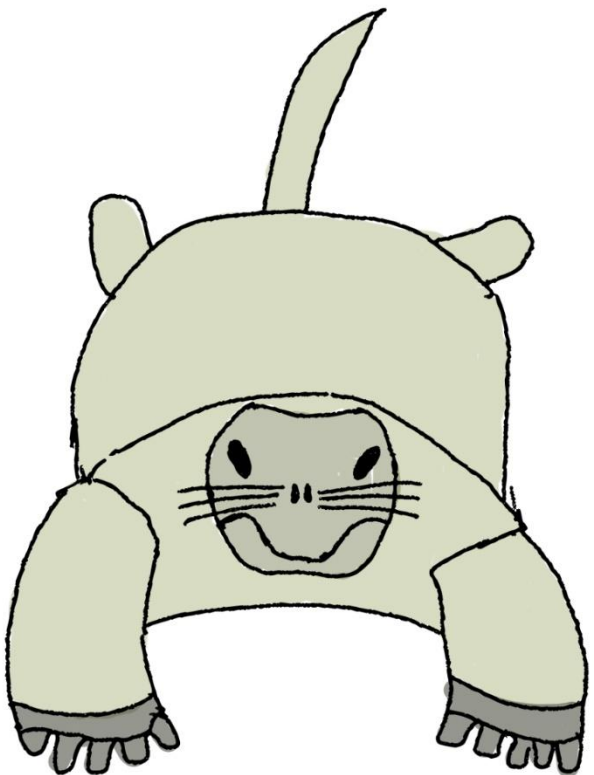
Level 2

Japanese 1231



昔、カメがいた。

カメは海に住んでいる動物だ。今のカメと違う。カメはひげと  
つぼがあった。今のカメはしっぽがあるけど、昔のしっぽはと  
ても長かった。昔カメは甲羅がなかった。だから、体は柔らか  
かった。そして、カメはよくいじめられた。いろいろな他の動物に  
よくおそわれていた。



ある日、カメは森もりで歩あいていた。

急きゆうに、オオカミが見えた。オオカミは

「おまえのひげはかっこよさそうねえ。俺おれにくれ。」

と聞いた。カメは

「でも、いつもひげを使うよ。歩くとき、何かどこであるか学ぶために、ひげを使うつか。」

と答こたえた。オオカミは

「残念ざんねんだね。でも、俺おれはまだひげがほしい。」

と言った。そして、オオカミにひげを取とられた。カメは寂さびしいけど、カメは歩あるき続つづけた。

ある日、ワシはカメを見た

ワシは

「ちよつと待<sup>ま</sup>って。」

と言<sup>い</sup>って。カメは

「どうして？」

と答<sup>こた</sup>えた。ワシは

「今日、まだ食べていない。そして、一つの指<sup>ゆび</sup>をくれ。」

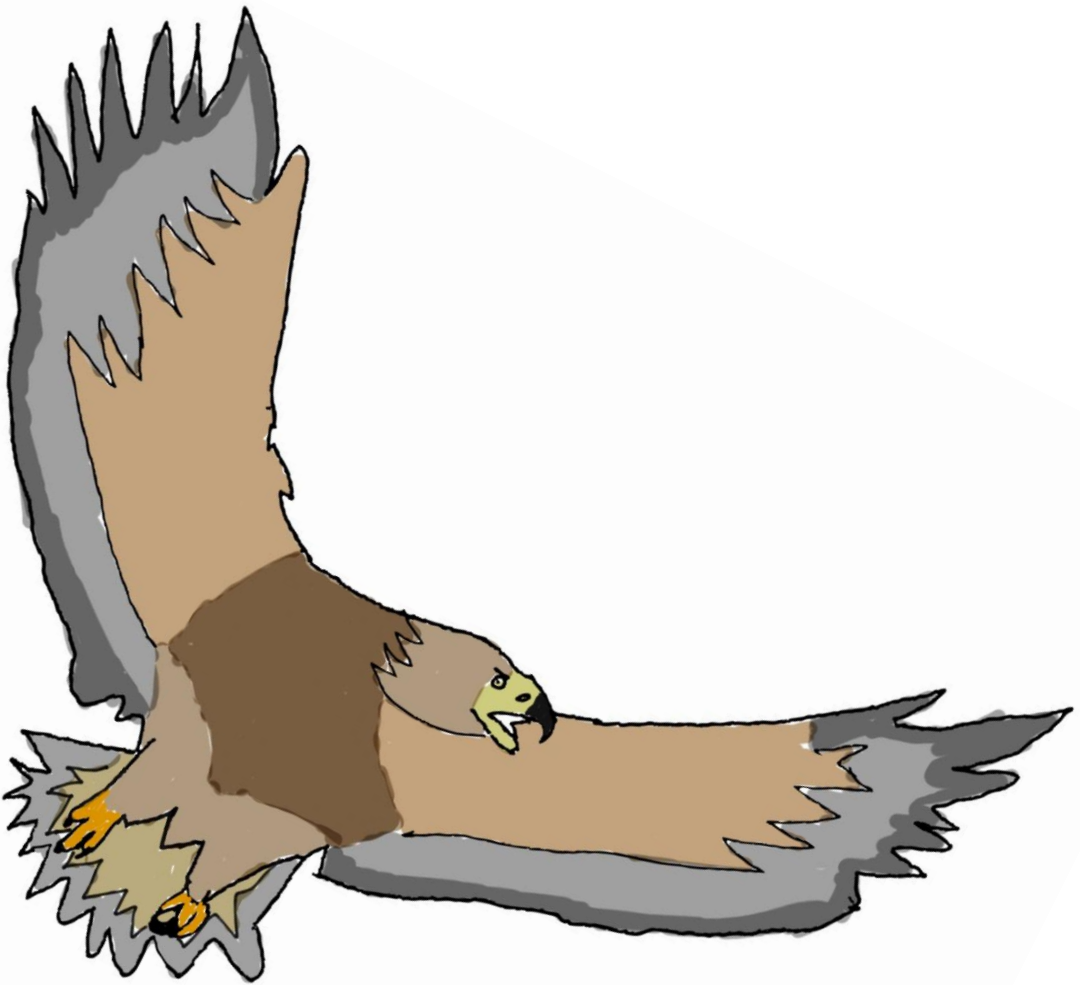
と言<sup>い</sup>った。カメは

「僕<sup>ぼく</sup>の指<sup>ゆび</sup>を食べてはいけないよ。」

と言<sup>い</sup>った。ワシは

「指<sup>ゆび</sup>をくれなかったら、俺<sup>おれ</sup>は指<sup>ゆび</sup>を取<sup>と</sup>る。」

と言<sup>い</sup>い切<sup>き</sup>った。



カメはちよつと弱<sup>よわ</sup>くて、戦<sup>たたか</sup>うことができない。そして、ワシは  
カメの指<sup>ゆび</sup>をもらって食べた。ワシに指<sup>ゆび</sup>を食<sup>あ</sup>べられてしまった後<sup>あと</sup>  
で、ワシは飛<sup>と</sup>び出<sup>だ</sup>した。

次つぎの日、カメは海岸かいがんでゆつくりしていた。

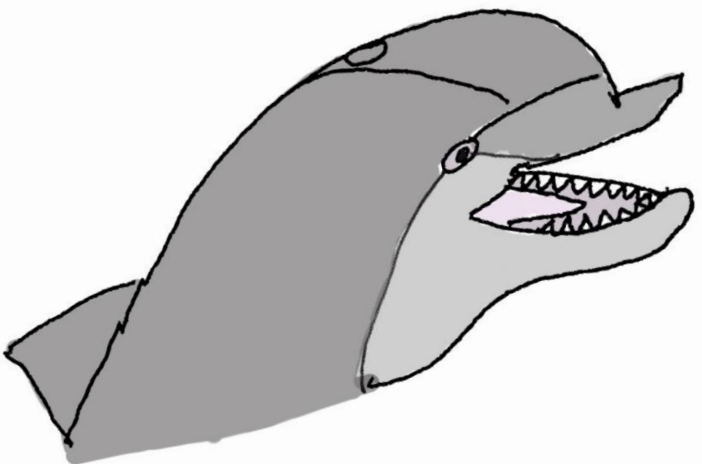
カメは

「はああ、温あたたかいねえええ。今日の天気はとつてもいいねええ。」と言はなった。話しながら、ワシが戻もどった。ワシは

「俺おれはまた食べなければならぬ。そして、しっぽをくれ。」と言いった。カメは

「でも、僕ぼくはしっぽがある。」

と答こたえた。カメは答こたえた後あとで、ワシにおそわれて、しっぽを食べられた。



そして、カメのしっぽと指とひげはもうなくなった。次の日、カメは海岸でゆっくりしているとき、イルカが来た。イルカは

「カメ、毎日、他の動物はいじめている。海で

暮らしたらどう？カメさん逃げたら、

ワシとオオカミにいじめられない。」

と言った。そして、カメは海にイルカを追った。

次つぎの日、カメは海うみの中なかにいる。

海うみにいるから、もうワシとオオカミにいじめられない。けれど  
も、他ほかの動物どうぶつにいじめられる。カメは食べ物たべものをさがしながら、サ  
メが近づちかづいた。サメは

「その魚さかな、待まって。おなかがペコペコだ。」

と言いった。カメはサメに見みられたことがないけど、甲羅こうらがないか  
ら、魚さかなに似にていると思おった。カメは

「僕ぼくは魚さかなじゃないよ。僕ぼくを食たべないでください。」

と答こたえた。サメは



「気にしないよ。お前はおいしそうだ。」

と言った。それから、サメにおそわれた。でも、カメは上手に泳げるから、逃げられた。泳ぎながら、カタツムリを見つけた。カタツムリは甲羅がある。だから、おそわれたら、甲羅はカタツムリを守る。カタツムリは

「どうしたの？」

と聞いた。カメは

「僕は誰からでもいじめられる。」

と答えた。

カタツムリは

「昔、むかし誰でもカタツムリを食たべた。でも、ある日、一つのカタツムリは甲羅こうらを見つけた。今、カタツムリはいじめにあわな  
い。」と言った。カメは

「そうだ。僕ぼくの体からだは柔やわらかいから、僕ぼくは自分じぶんを守まもれない。でも、甲羅こうらがあつたら、サメとワシとオオカミにいじめられない」

と言った。それから、カメは貝かいを見つけて甲羅こうらを作った。

甲羅こうらを作った後あとで、サメが追おいついた。サメは

「どうして逃にげた？弱虫よわむしだね。」

と言った。カメは

「僕は弱虫よわむしじゃない。僕はもう逃にげない。」

と答こたえた。それから、サメにおそわれた。でも、甲羅こうらがあるから、サメはカメを食べられなかった。サメはもう一度いちど食べてみたかったけど、食べられなかった。カメは

「駄目だめだよ。甲羅こうらがあるから、大丈夫だいじょうぶだ。」

と言った。サメは「このやろう」と言って出でた。

次つぎの日、カメは海岸かいがんに帰かえった。

海うみから来くるとき、オオカミとワシを見た。

「じゃあ、僕ぼくは帰かえってきた。でも、今いま、甲羅こうらがあるから、お前まえは僕ぼくを食べくられないよ。お前まえはもう怖こわくないよ。」

と言いった。もうすぐ、ワシとオオカミにおそわれたけど、二人もカメを食べくられなかった。

だから、ワシとオオカミは出でかけた。カメは

「僕ぼくはまたここに暮くらせるけど、僕ぼくの新しい友とも達は海うみに住すんでいる」

と言いった。それから、カメは海うみに帰かえった。

今、カメは海に住んでいるけど、子供を産むとき、海岸に帰つた。というのは、カメの命が海岸で始まる。

そして、子供が産まれるとき、甲羅があつて、

生んだカメの命もまた海岸で始まる。

